

COVID、イベルメクチン、集団発生精神異常：マローン博士の痛烈な批判

Dr. Robert Malone の Joe Rogan への洞察的インタビュー

Zero Hedge

January 1, 2022

<https://www.infowars.com/posts/covid-ivermectin-mass-formation-psychosis-highlights-of-dr-robert-malones-blistering-interview-to-joe-rogan/>

⇒COVID 注射に用いられている mRNA 技術の発明者が、世界中の政府がいかにかに法と、生命倫理の基本理念を破り、彼らのアジェンダを押し付けているか説明する。

⇒「これは、現代のメディアによる統制であり戦争だ」と彼は、彼の言論を禁止するツイッターについて言っている。

mRNA の発明者ロバート・マローン博士が、大晦日に放映されたジョー・ローガンへのインタビューで、小気味のよい議論を展開した。

もしあなたに3時間だけ余暇があるなら、その全体をここに視聴されることをお勧めする。

<https://open.spotify.com/episode/3SCsueX2bZdbEzRtKOCEyT>

Malone は、カリフォルニア大学デイヴィス校、同サンディエゴ校、および Salk Institute で教育を受けた、mRNA ワクチン技術の専門家だが、彼は木曜日に、何の説明もなくツイッターによって言論を停止された。彼はいま、Alex Berenson と同じように、訴訟を計画しているようである。

<https://www.zerohedge.com/political/twitter-suspends-mrna-inventor-dr-robert-malone>

<https://www.zerohedge.com/political/alex-berenson-sues-twitter-says-company-acted-behalf-biden-administration>

このマローン博士の、Infowars リポーターKristi Leigh との意味深いインタビューは、Joe Rogan との対話の後に行われた。

この言論停止処置は、マローンが、フェイスブックや Johnson & Johnson の資金による The Atlantic 掲載のヒット論文に関して、悪口を言われたことから起こった。

「このことが起こった3日前、このジャーナリストはそれ以前に、高度教育の問題に関して〈急進的〉論文を書いている。彼は明らかにカネを貰っている。人々ははっきりと、この論文は Robert Boyd Johnson の基金と、Zuckerberg-Chang の先導によるものだと言っている。

．．．

「彼は完全に何かに憑りつかれていた。〈ロバート、なぜあなたはそんなことを言うのだ？ あなたは何らかの金銭的動機を持っているに違いない。あなたがそういうことをするのは、何か理由がなければならぬ。〉私は彼に繰り返して言った、「なぜなら、それが、なすべき正しいことだからだ。」

「私は自分が、この技術の開発に深く関与しながら、金銭に関わっていない唯一の人間だと思っている。私にとってその理由は、いま起こっていることは正しくないからだ。それは私の職業を破壊しつつある。それは世界的に、医学の実践を破壊しつつある。…私はワクチン学者だ。私は30年間、ワクチンを開発し続けてきた。大量の馬鹿げた教育が出回って、そのやり方、そのルールを教えている。私はどうかと言えば、私の規律が、全く何の理由もなしに破壊されているのを見て、個人的に腹を立てている。明らかにそこには、金銭的動機と、政治的な尻隠し以外に、何も考えられないのだ。——ロバート・マローン

「我々の政府は、コントロールを失っている」と、マローンは続ける。「そして、この者たちは無法者だ。彼らは完全に生命倫理を無視している。連邦共通のルールを無視している。彼らは、私の知っているすべてのルール、私が何年もかけて叩き込まれたすべての教えを、破壊してしまった。これら実験的ワクチンの命令は、明白に違法だ。それらは明白にニュルンベルグ法典と相容れないものだ。それらが完全な違法であるにもかかわらず、彼らは全く気にしていない。」

マローンは続いて、ローガンに、インドの Uttar Pradesh 地方では、Covid は、イベルメクチンを含む初期治療によって全滅されたが、バイデン政府はモディ首相に会い、「この治療の内容を明かさないようにする決定をした」と言った。

彼らはさらに、イベルメクチンや初期の介入一般の話題を詳しく論じた。マローンによれば、「確実な研究モデルがあり、50万以上の死亡が、アメリカで起こっていることを示しているが、これはアメリカ政府によって、初期の COVID 治療が、意図的に妨害されていることによるものだ」と言った。

マローンとローガンは、次に、Covidの背後にある、ある**重い (heavy、厄介な?) 科学**に言及し、マローンは、自然のCovid免疫を持つ人々は、ワクチンによる有害事故を、より受けやすいのだと説明した。

「ここには、この科学によって**解明されない多くの問題があるのだ。**」

彼らは次に、14歳の少女がワクチンによって「障害を受けたが、この出来事は胃の痛みとして報告されたことに言及した。

「この若い女性は、胃の痛みによる症状として記載されたが、実は、彼女の罹ったのは**発作**だった。そして今、彼女は車椅子に乘せられ、経鼻胃管を挿入されている。」

このインタビューの終わりごろ、マローンは、さらに**深い洞察**を示し、人々は**集団発生精神異常**を起こしていると言い、1920年代から1930年代の、ドイツでの並行現象を指摘し、そこでは彼らは、「高度に知能的な、高度な教育を受けた人々だったにもかかわらず、狂って吠えたのだ」と言った。

そしてツイッターは、マローンの声が聴くに値するものだと考えていない。

[訳者 Greatchain より]

このほかにロバート・マローン博士は、いろいろな指摘をしているが、すべてが常識的で、名医による分析のようである。彼はmRNAによる、実験的遺伝子治療の開発者であり、この分野のすべての人が、彼の恩恵を受けているにもかかわらず、彼を愚か者扱いし、発言権さえ奪ってしまった。その事情がこれによくわかる。彼は医療倫理を厳しく主張し、医学の本質を主張した。しかし、アンソニー・ファウチや、エゼキエル・エマヌエル (Ezekiel Emanuel) ——私はこの名を2年前の退院直後に知った——のような医療倫理を否定し、「医者に良心など要らない」と主張する人々が、彼らの理論を絶対的なものにしてしまった。これが現在の我々の、政府とメディアが支配する知的風土のようなものを、馬鹿々々しくも支配してしまった。

それがマローン博士の言う、ナチスドイツ時代に共通する「**集団発生精神異常**」であり、彼らは、マローンを全面否定して、ワクチンを強制しない限り、パンデミックは絶対になくならないと主張している。しかしこれはCOVIDに限らない。少し

でも人口削減やロックダウン（心身の幽閉）の役に立つものなら、普通の風邪でも、痴呆症でも、（私の罹った）せん妄でも、何でもよいのである。彼らは、悪びれることなく堂々とそれを言っている。そして我々は、むしろ自分の方から、この狂った文化に喝采し、「狂って吠えている」ように見える。マローンなどいう馬鹿の言うことを聞くな、と指導者たちは教えている。

もう一つ興味深いのは、マローン博士が heavy science（厄介な科学？）という言葉を使い、これが、Covid の自然免疫とワクチンによる有害反応に関係するもので、「ここには、この科学によって解明されない多くの問題があるのだ」と、言っていることである。これがどういう意味かはわからないが、彼が、**自然の前に謙虚**で慎重な科学者であり、ファウチのように、自然免疫など存在しないかのように言い、「私に逆らう者は**科学**に逆らう者だ」という傲慢な立場とは、大きな違いであることがわかる。ファウチの基本的立場は、「疑わしきは（根拠が薄弱でも）罰せよ＝殺せ」というもので、わが国でも、それが踏襲されていると考えざるをえない。